

キャンヘルプタイランド

ネットワーク通信

バンコク便り

2014年7月30日発行 第66号

バンコク在住の西川会長から

5月22日にクーデターが宣言されて、はやくも2か月が過ぎました。

日本でも大々的に報道されていまして、心配して下さった方も多いかと思いますが、バンコクは今、ここ数年なかった平穏さに包まれているように感じます。

5月22日午後4時半、軍がクーデターを宣言し、憲法の停止を発表しました。ただ、周りのタイ人や長くいる日本人は「えらいことになった」というより、「ようやく動き始めたか」という受け止め方をした人が多かったように思います。むしろ、夜間外出令が合わせて発令されて、市内の地下鉄やBTS（高架鉄道）の運転時間短縮が6時過ぎになって発表されたことで、様々な情報が錯綜し、私が勤めている学校も学生たちが騒ぎ出しました。その日は市内の交通機関が8時に動かなくなるということで（実際には9時でしたが）、夜の授業を切り上げて学生たちを帰らせ、私も家路を急ぎました。

ビジネス街でもある職場近くの道路は急な夜間禁止令発令で家路を急ぐ車列で大渋滞。電車や地下鉄の駅にも人が溢れ、改札規制が敷かれるほどでした。ただ、パニックになるような殺気立った雰囲気はなく、みな秩序だって淡々と自分の順番を静かに待っていたのが印象的でした。そこには今回のクーデターが、外国人がイメージする「クーデター」ではないという安心感もあったのではないかと思います。

多くの外国人は軍事クーデターというと軍が一般市民に武力を行使したり、軍主導で暴動が起こったりという事態を想像するのかもしれませんが、私を含め多くのタイ人は今回のクーデターで長年続き、今まさに膠着状態に陥っている政府支持派と反政府派の抗争が、事態回復に向けて動き出したのかもしれないと期待したようにと思います。（もちろんクーデターに反対する人たちもいますが）

翌日以降、しばらく夜間外出令は続いたものの、皆それに合わせて行動するようになり、出勤、帰宅時の混乱はなくなりました。店舗も閉店時間が通常より早くなっただけでいつもと変わらぬ生活を続けることができました。市内各所にあったデモ会場は次々に撤収になり、ついには一掃されました。そして、サッカーのワールドカップ開催に合わせて（?）、夜間外出令も解除になり、今は普段通りの、デモのない生活を楽しんでいます。

政府とデモ隊とで銃撃戦になって近辺に住む同僚を避難させた2010年の戒厳令、バンコクから飛行機が飛べなくなって、チェンマイまで行って東京出張に向かった2008年のデモ隊による空港封鎖などを思い出して、ずいぶん長い間デモが続いたものだ感慨一入です。

もちろん今の軍事政権は暫定政府で、諸外国からは非難され、報道規制もされているので、完全に元通りというわけにはいきませんが、タイの政治がこのままいい方向に向かってくれることを願ってやみません。

西川弘達


 特集

～2014 年奨学金授与式～

報告者 寺島 優美

今年度の授与式は6月30日から7月5日まで、タイではクーデターにより軍が国を統治している状態であったため日本では治安の悪化が懸念されていましたが、バンコク・東北地域共に目立った暴動や軍隊が占拠している所を目にすることはなく、特に変わった様子はない印象でした。現地の教育委員会の方々に東北地域ではクーデターの影響はありますか？と尋ねると、やはり地域的には内心は良く思っていないが軍の力が強いこと、5名以上の集まりの際は事前に集会の目的を軍に報告する義務があるとのこともあり表立った抵抗はしておらず普通に生活している、ということでした。また、麻薬などの規制は強くなり、むしろ治安は良くなっておりクーデター後1か月の現在として市民は好意的な評価をしているとのことでした。例年この時期は雨期の始まりで何度かスコールにあいりましたが、10～20分程度ザーッと降ったあとはカラッと止み虹が見えることもありました。また、今年度は授与式に参加する子供たちが集合時間の前にはかなり集まっており、時間を守ることが出来るようになってきていることに感心しました。

今年のキャンからの挨拶は寺島がさせて頂き、「子供たちが恵まれない環境の中でもやさしくたくましく育てていることを尊敬しています。これからも大変なことも多いと思うがこの心を失わずに過ごしてほしい。また、わたしは自分の仕事(医療職ですが)にやりがいを感じており、この仕事に巡り合えたことはとてもラッキーです。そして仕事をする事で収入を得て経済的に自立することとそれ以上のものを得ることが出来ることはとても幸福だと感じています。皆さんも、これから進路を決めていく中で何を(職業)誰と関わるか、また家族や友人、地域や社会にどう関わって貢献していくかを考えながら、楽しいこと・嬉しいことを見つけて過ごして行ってほしい。」と伝えました。教育委員会の方の挨拶は、主に、私達スタッフが現地へ直接来てくれたことに対する感謝と奨学金は勉強して国の役に立つ人となるために使ってほしい、との内容でした。中でも印象に残ったのがマサラカム県の副委員長チャイシツツさんのお話で、教育を受けるということは親や周囲の力を借りているということ、一種のチャンスを与えられているということなのでこのチャンスを生かして経済的・社会的に自立し恩返しをしてほしい。また、社会には誘惑は沢山あるが、「足るを知る」の思想を持ち収入と支出など家庭の余裕や自身の余裕を考えて、ある程度自立をしてから自身に見合う楽しみや喜びを得てほしいとの内容でした。私は日本の恵まれた環境にいても、ともすれば「もっと、もっと」と得ることが良いことだと感じてしまうこともある自分自身への教訓にも感じました。

今年も継続生徒へ「何か出来る事を用意してきてほしい、なければ自身の村の好きなところの話をしてほしい」旨の通知をしました。ナコンパノム県の教育委員の方はタイの子供は基本的に集団の中で自己主張することが苦手だけれど、日本の子供は自身の考えや主張を持っていて自己主張が出来るのではないかと、言っていました。実際はそうでもないような気がしますし、私から見るとタイの子供はとても素直で率直であり子供らしいと感じました。また、今回のW杯でも選手の活躍は残念だったが、タイでは日本の観客が試合終了後にごみを拾う姿が有名になっていたとも言っていて、つくづく日本人に対して良心的で友好的な目が向けられているなぁと感じました。子供たちの発表では「村の好きなところ」は田んぼがあり、水があり、魚が住んでいて緑豊かな風景を誇りに思う。村にあるお寺好きで、お寺に行くと安らぎを感じる。家が好きで家族で過ごしたり、農作業しているときに幸せだと感じる。など、流石なかなかしぶいなぁという感じでしたが子供達の表現はとても素直できれいでした。また、得意の英語でスピーチ(身振り手振りを加えた劇場版)、日本語の歌を歌う(「愛している～」と歌詞がはっきり聴こえたのが印象的でした)、タイの歌を歌う(透き通るような歌声が印象的でした)やギターや民族楽器を演奏してくれる男の子もいて多岐にとんでいました。

今年の家庭訪問はサッケオ県の新規の奨学生、小学6年生サラウッドくん宅を訪問させて頂きました。家族構成は10人家族で父親は居なく、母親は新しい家族を作りサラウッド君の面倒を見なくなったため祖父母に引き取られ祖父母が親代わりをしています。祖父は5年前に脳卒中を患い、後遺症があり働くことは出来ません。姉夫婦のわずかな賃金と土地を貸しているお金で生活していますが、電化製品は扇風機1台・テレビ1台・ケータイ電話1台のみで交通手段がありませんでした。その影響もあってか、祖父は発症した直後の数か月は1人で歩くことや右手も使うことが出来たようですが、現在は一人では歩くことや右手を使うことが出来ませんでした。おじいさんの歩行介助をさせて頂いているときに、この家族がなすすべなくこのような状態になってしまったことを受け入れるしかないことが何だか悲しくも感じられましたが、同時に「どのようなリハビリをやると良いか？」とおばあさんが一生懸命尋ねてきましたし、それを聴くおじいさんの目も輝いているのを見て人間が「良くなりたい」という想いは本当に強いものだ、と感じました。タイでは高齢となり病気やけがをした場合基本的に在宅となりますが、訪問診療や訪問看護・リハビリの制度は普及しておらず保健所の診療所職員による訪問のみとのことで、日本同様に少子高齢化という社会問題を抱えており、これから子供たちがどのような社会を創っていくのか、と考えると共に、何気なく祖父母の手伝いをする子供達をみて、今回サラウッド君を新規の奨学生として迎えることが出来て、この少年のチャンスに、ほんのわずかでもこの家庭の希望になって本当に良かったなぁと思いました。今回のように新規の奨学生を受け入れることが出来るのも、ドナーの皆様のおかげによるものです。有難いなぁと改めて感謝するとともに、この場をお借りして深くお礼申し上げます。



(左から3番目：サラウッドくん、真ん中：祖父)

おじいさんの歩行介助をさせて頂いているときに、この家族がなすすべなくこのような状態になってしまったことを受け入れるしかないことが何だか悲しくも感じられましたが、同時に「どのようなリハビリをやると良いか？」とおばあさんが一生懸命尋ねてきましたし、それを聴くおじいさんの目も輝いているのを見て人間が「良くなりたい」という想いは本当に強いものだ、と感じました。タイでは高齢となり病気やけがをした場合基本的に在宅となりますが、訪問診療や訪問看護・リハビリの制度は普及しておらず保健所の診療所職員による訪問のみとのことで、日本同様に少子高齢化という社会問題を抱えており、これから子供たちがどのような社会を創っていくのか、と考えると共に、何気なく祖父母の手伝いをする子供達をみて、今回サラウッド君を新規の奨学生として迎えることが出来て、この少年のチャンスに、ほんのわずかでもこの家庭の希望になって本当に良かったなぁと思いました。今回のように新規の奨学生を受け入れることが出来るのも、ドナーの皆様のおかげによるものです。有難いなぁと改めて感謝するとともに、この場をお借りして深くお礼申し上げます。

今回家庭訪問をさせて頂いたサラウッドくんはとても成績優秀だそうで、そのような子供のやる気と才能が、環境が整わないことで芽を出すことが出来ないことはこの子自身や家族にとってもタイの社会にとっても、とてももったいないことだと思いました。ドナーの皆様には、後日送付させて頂く各種書類をご覧になるときに、子供達の家庭や生活はどのような状況なのか、手紙をご覧いただくときにどんなことを想い生活をしているのかをみて頂き子供達を理解して頂くことで、また、何かを感じとって頂くことができると幸いです。

また、この奨学金プログラムはスタート以来20年になりますが、最近5~6年は寄付金が減少傾向になり、特に2011東日本大震災から支援金の流動があり、大幅に減少しておりまして当会の繰り越し基金から補填して奨学生の人数を維持しているのが現状です。そこで、下記県に関しては、本年度限りで「新規奨学生」の受付中止と「奨学金授与式」中止せざるを得なくなりましたのでご報告させて頂くと共にご理解頂きたくお願い申し上げます。

サコンナコン県、ヤソトーン県、シーサケット県、スリン県、ブリラム県、サッケオ県
計6県

※なお「現在の継続奨学生」に対しては各教育委員会の方々のご協力の元、対象生徒が卒業するまで責任をもって本人宛に直接講座送金して支援を継続することとさせて頂きます。

皆様の友人、知人へのお声掛けで支援の輪を再度広げてきたいと思いますので、皆様のご協力をお願いしたいと思います。

●2014 年県別支援人数●

県名	3,000パーツ支援		2,000パーツ支援		県の合計支援金額
	高校、専門学校、 短大人数	中学生人数	小学生人数		
サケーオ	3	5	0		19000
ブリラム	8	10	0		44000
スリン	4	6	0		24000
シーサケット	8	3	0		30000
ヤソトーン	9	5	0		37000
ロイエット	7	4	1		31000
マハサラカーム	8	6	0		36000
カラシン	11	4	0		41000
サコンナコーン	10	5	0		40000
ムックダハーン	10	4	0		38000
ナコンパノム	11	4	0		41000

●授与式報告●

6月30日 (サコンナコン・ナコンパノム県)

サコンナコン県

この地域は中学卒業後に専門的な職業内容について学ぶ職業訓練校が充実しているということで、他県からも職業訓練の為に学生が集まっていると教えて頂きました。また、2~3年前から国としても高校進学よりも職業訓練校を推進しているそうです。目的をもって未来に繋がることを学ぶことが出来るといった点でそれもいいことだなあ、と感じました。授与式は初めての県ということもあって緊張しましたが、とても温かく迎え入れて頂き、中学生位の女の子が手作りのキーホルダーをお礼に下さいました。事前に10~20個位作成し、きれいに包装してあり、この日の為に・ドナー様への感謝の気持ちを込めて時間をかけて作ってくれたのだなあ、と感じ喜ばしい気持ちで少し和みました。

ナコンパノム県

教育委員会副委員長さんがお話をしているなかで、「タイの子供はとても素直だから悪用されてしまうと、騙されたり傷つけられたりしてしまうことがあるからそれが心配だ。」とおっしゃっていました。昨年3月の海ツアーに参加していた男の子が居たので、「(私のことを)覚えている？」と尋ねると「覚えてない」と笑顔で返事があり、やはりなるほど、率直な返答と無邪気さを感じられ逆に微笑ましく思いました。私の個人的な感想としても、タイの子供たちは素朴で純粋な印象があり、カラッとした感じが魅力に思います。

7月1日 (ムクダハン・カラシン県)

ムクダハン県

周りの風景として田が多くとても開けている印象で、7月は田植えの真っ最中でした。

ここで、協力団体Freeの むさん(奨学生のフォローをして下さっていて、



お姉さんの存在)のケータイに電話がかかってきました。中学から奨学金を受けていて、現在短大生の子が、学校がお休みの土日に就労した賃金で収入を得ることが出来ているため、奨学金の枠を譲りたいとの申し出がありました。去年、奨学生に配布した冊子に最南部で川を4つ渡らなければ通学出来ないが毎日勉強をするために長時間かけて通学している子供が居るといった内容の記事を載せてあったのですが、その記事を見て自分よりも大変な思いをしている子に譲りたいと働くことを始めたそうです。自身も奨学金を必要とする家庭環境のなかで、それでも自分よりも大変な思いをしているであろうと感じる心と、それに対して自ら働くという行動をして自立し、他者を助けるという考えとなったということがとても素晴らしく喜ばしいと感じました。

カラシン県

発表の時間に中学生くらいの男の子が民族楽器(ギターのようなもの)を演奏してくれました。この子は終始とてもニコニコしていてそれでいながらも堂々とした演奏で力強さを感じました。

私自身も2日目の授与式ということもあり、言葉は分からないなりにだんだん子供たちの個性が伝わってくるような感じがしました。恥ずかしがり屋だったりお茶目だったり自信满满だったり、と色々な子供がいましたがどの子にも共通して感じたことは、「生きているたくましさ」でした。それが、時々垣間見えるような気がして、大変な環境の中で今まで頑張ってきた、そしてこれからも生きていくたくまさが真っ直ぐに伝わってきました。この心・姿勢が現実の中で実を結び、社会で生きていける力をつけることが出来ますように、と祈る気持ちになりました。

7月2日 (マサハラカム・ロイエット県)

マサハラカム県

授与式開始 30分前にほぼ全員揃っている位の集合の良さでした。タイの人々は大らかな印象がありますが、今年の授与式では殆ど遅刻してくる子供は居ませんでした。先述させて頂いた、副委員長さんのお話がとても印象的でした。



ロイエット県

この県では、女子高校生の4~7人がグループでワイワイしながら「写真を撮ってください」と積極的に声を掛けてくれました。青春真っ盛りといった感じで、とても生き生きしていて私も高校生にかえたような気持ちで楽しく写真を撮りました。どんな環境でも、このような青春があることが良かったなぁと感じました。



7月3日 (ヤソトーン・シーサケット県)

ヤソトーン県

この県では、沢山のお礼の品を頂きました。どの品も手作りで自身が描いた絵やお祖母さんが作ってくれた枕など、どれも手間暇かけて作ってくれたものばかりでした。大変申し訳ないことに大きさの大きい枕などはお届けすることが出来ませんが、ドナー様へ描いた絵やポストカードは後日郵送させて頂きます。また、これらの品々を手渡す時に合掌して深々と頭を下げる「コップン・マーク・カア(クラブ)」と言う子供達の姿を見て、子供たちの心からの感謝を感じるとともに、私自身も子供たちの感



謝を感じ・伝えるこのような機会を頂きドナーの皆様へ感謝の気持ちで一杯になりました。

シーサケット県

この県では、発表の時に皆が恥ずかしがって？なかなか出てきてくれませんでした。女の子が2人自身の村の好きなところを話してくれました。県によっても、子供たちの個性があるようで、面白く感じました。

7月4日 (スリン・プリラム県)

スリン県

この県では、毎年このような形で子供たちが自己紹介とお礼の言葉を述べます。教育委員会の方は、子供たちが皆の前で何かを発表することの練習にもなり、自信をつけることにもなるのでこの機会を大切にしている、とおっしゃっていました。来年この県では授与式を実施出来ないため申し訳ない気持ちになりましたが、スリン県の教育委員会の方は終始友好的・協力的で温かく接してくださいました。奨学金を受け取るだけでなく、子供たちがどのような援助が必要でどのように社会に迎えられるかを考えてみえている所が垣間見られて印象的でした。



プリラム県

比較的ざっくばらんに授与式が行われ、終始和やかな印象でした。途中、奨学生の子供の挨拶の発音が異なったので「タイ語は話しますか？」と質問すると、家では民族の言葉で話しているとのことでした。色々な民族の人々がタイで普通に馴染んで生活しているのなだなぁ、と身近に感じました。

7月5日 (サッケオ県)

サッケオ県

授与式後、一人の少女がむさんに駆け寄り、なにやら一生懸命話をしていました。なんでも、将来医者になりたいがそのためにはどうすれば良いか、とのことでした。今後の生活や職業を含めて将来に希望や意思が芽生えていることはとても良いことで、奨学金はその灯りをともす手助けになっているのではないかと感じられ、継続的な奨学金プログラムの必要性を感じるようになりました。



私としては、子供達一人一人に何の科目が好きなのか、どんな遊びが好きなのか？など沢山聞きたいことはありましたが、わずかな滞在時間で多くのことは聞くことが出来ませんでした。ムクダハン県で子供たちに「どんな時に楽しいか、どんな時につらいか？」と聞くと、友達といるとき、勉強をしているとき、家で農家の手伝いをしているとき、家族といるとき、サッカーをするときなどに楽しいと感じ、自分よりも大変な生活をしている人のニュースを見たとき、母親が苦勞をしているとき、アルバイトをしているときなどにつらいと感じるとのことでした。

子供たちは、奨学金を支援し陰で支えて下さっているドナーの人はどんな人何だろうと興味・関心を持っていますので、皆様から何かお声掛けや質問（そちらの天気は如何ですか？過ごしやすいですか？今、一番楽しいことは何ですか？日本では今このようなものが流行っています。日本のことで知りたいことはありますか？など…なんでも構いません）がございましたら、日本語で構いませんので是非事務所までにお送り頂ければと思います。事務所でタイ語に翻訳させて頂いて生徒へ送らせて頂きますので、この機会にお便りを頂きたくお願い申し上げます。

2014年7月 寺島 優美 記

報告

～すみれ基金奨学生からの手紙～

パニッサラー・セーヤーンさんからの手紙

สวัสดีค่ะพี่ทุกคน เป็นอย่างไรกันบ้าง ? ค่ะสบายดีรีเปลาคะ ?
 ช่วงนี้หนูก็กำลังเตรียมตัวอ่านหนังสือเพื่อเตรียมความพร้อมในการเรียนค่ะ ทั้งตื่นเต้น ทั้งอยากรู้ว่า
 ชีวิตในมหาลัยจะเป็นยังไงนะ ? ? เพื่อนๆในมหาลัยจะดีเหมือนเพื่อนๆสมัยมัธยมรีเปลา ??
 การเรียนในมหาลัยจะเป็นแบบไหน ? ก็นะ และก็แอบกลัวนิดๆ >> << แต่ก็สู้เต็มที่ค่ะ และแล้ววันที่ 28
 เมษายน ที่ผ่านมา หนูก็ได้เห็นค่าเทอมตัวเอง มันค่อนข้างแพงค่ะ ยิ่งไงหนูก็ขอเบิกเงินในส่วนนี้ด้วยนะคะ
 หนูได้แนบเอกสารใบแจ้งยอดการชำระเงินจากทางมหาวิทยาลัยแม่ฟ้าหลวงมาเรียบร้อยแล้วค่ะ
 ซึ่งทางมหาลัยกำหนดให้จ่ายตั้งแต่ 28 เมษายน - 9 พฤษภาคม 2557 ค่ะ
 สุดท้ายนี้หนูต้องขอขอบคุณพี่ๆมูลนิธิพลังทุกคนที่ให้โอกาสแก่หนู ขอขอบคุณนะคะ ☺ ☺
 หนูจะตั้งใจเรียนค่ะ และเมื่อหนูเติบโตขึ้นหนูจะเป็นผู้ให้กับผู้อื่นเหมือนอย่างที่ท่านมูลนิธิให้โอกาสหนู
 ขอขอบคุณค่ะ ขอพระเจ้าทรงอวยพระพร เสริมกำลังเรี่ยวแรง ดูแลปกป้องคุ้มครอง
 และทรงนำชีวิตพี่ๆที่มูลนิธิทุกคนให้ประสบแต่ความสำเร็จ และมีความสุขมากๆนะคะ
 ☺ Thank you very much for your chance for me ☺ GOD BLESS U ☺☺
 ☺ NUTTY ☺ น.ส.เปมิกา
 กิตติศักดิ์ยังยืน
 นิสิตสำนักวิชาพยาบาลศาสตร์ มหาวิทยาลัยแม่ฟ้าหลวง

皆様、こんにちは。お元気ですか？ 今私は大学の勉強の準備をしています。大学生生活はどんなものかとてもわくわくしています。大学の友達は高校の友達と同じようにいい人なのか？大学での勉強はどんなものなのか？ ちょっと不安です。 >><< でも一所懸命頑張ります。4月28日に学費の請求書が来ました。かなり高いです。学費の一部は奨学金に頼るしかありません。学費の支払いは4月28日から5月9日までとなっています。宜しくお願いします。

最後に財団や基金のみなさんに大変感謝いたします。私に勉強のチャンスをくださってありがとうございます。☺ ☺ 一所懸命勉強することを約束します。大きくなるとみなさんが私にチャンスを下さったのと同じように、私も他の人にできることをしたいと思います。神様の力でみなさんのご健康、ご成功を、ご多福をお祈りいたします。

☺ Thank you very much for your chance for me ☺ GOD BLESS U ☺☺
 ☺ NUTTY ☺

Pemika (Panissara) Kittisakyangyuen (Saeyang)
 Nurse Department Maefaluang University

アッチラー・アドウィンジットさんからの手紙

27 พฤษภาคม 2557

สวัสดีพี่ทุกคนนะคะ

เป็นยังไงบ้างคะ

ตอนนี้น้องฝนสบายดีค่ะ

หลังจากที่ได้ออกจากคาไปมีคนใจบุญโอนเงินมาให้น้องฝนด้วยคะ ตอนนี้ก็ได้ประมาณหนึ่งหมื่นกว่าบาทคะ
 น้องฝนตั้งใจว่าจะเก็บเอาไว้ใช้เฉพาะการศึกษาเท่านั้นจะไม่ถอนออกมาเด็ดขาด

เดือนหน้าน้องฝนก็จะไปอยู่มหาวิทยาลัยเต็มตัวแล้วนะคะ

สัปดาห์หน้าน้องฝนก็เตรียมตัวซื้อข้าวของเข้าหอแล้วค่ะ

ซึ่งเงินที่ซื้อของเข้าหอพักนี้

น้องฝนเอามาจากเงินที่ทำงานคะ

น้องฝนมีความสุขทุกครั้งที่ได้เห็นเงินที่ตัวเองทำมาจับมือด้วยน้ำพักน้ำแรงของตัวเอง

มันรู้สึกมีความสุขภาคภูมิใจที่ตัวเองสามารถทำอะไรได้โดยที่น้องฝนไม่ต้องให้ใครมาลำบาก

สำหรับเรื่องที่ตัวเองสามารถช่วยเหลือได้

สำหรับสิ่งต่อไปที่น้องฝนต้องทำก็คือ “ความฝัน” ตอนนี้น้องฝนกำลังเดินหน้าต่อไป
 น้องฝนรู้สึกว่าเหมือนตัวเองเดินอยู่บนเส้นทางที่เปลี่ยวอ้างังไม่รู้จะ รู้สึกเหมือนมันโดดเดี่ยวอ้างังไม่รู้
 ที่เข้าใจใช่ไหมคะ ว่าการที่เราต้องเดินทำตามความฝันโดยลำพังมันรู้สึกเหงา และว่าเหว่มาก
 แต่ถึงอ้างังน้องฝนก็จะทำความฝันให้สำเร็จให้ได้ เพราะวัตถุประสงค์ของน้องฝนก็คือ เรียนให้จบ มีงานทำ
 สร้างบ้านให้เป็นหลักแหล่ง เพื่อที่จะให้ย่าได้สบายตอนที่ท่านชรา น้องฝนคิดตลอดคะ
 ว่าสิ่งที่น้องฝนทำอยู่ตอนนี้ทำเพื่อใคร และน้องฝนต้องทำให้สำเร็จให้ได้
 พี่ๆช่วยเป็นกำลังใจให้น้องฝนด้วยนะคะ
 สุดท้ายนี้ น้องฝนขอให้พี่ๆมีความสุข สุขภาพที่แข็งแรง และอยู่เป็นกำลังใจให้กับพวกเราต่อไปนะคะ
 ขอบคุณเพิ่มและพี่ๆทุกคนมากคะ

นางสาวอัจฉรา อตุลจิตร์
 นักศึกษามหาวิทยาลัยราชภัฏสุราษฎร์ธานี
 2014 年 5 月 27 日

みなさん、こんにちは、

お元気ですか？私は元気です。この間テレビ番組が取材したものが放送された後、1万バーツくらいの
 支援金が振り込まれました。この支援金をできるだけ長く貯金して、必要なとき勉強のためだけに使いた
 いと考えています。来月から大学での生活が始まります。来週寮生活に必要なものを購入する予定で
 す。この分のお金は自分が仕事して得たお金です。自分の力で得たお金、他の人に迷惑せずに自力で頑
 張れることはとても誇りに思います。

私は次にやるのは「夢」を実現することです。これから向かっていきます。しかし今自分が一人で誰も
 いない道に進んでいるというのは、なんだかとても孤独で寂しいです。それでも頑張ります。私も一番
 の夢は大学を卒業、仕事をして、ちゃんとした家を作り、私を育ててくれたおばあさんが高齢のときに
 快適に過ごせることです。いつも自分が持っている目標を思っています。必ず成功してみせます。

私を応援してください。

最後にみなさんのご多福、ご健康をお祈りいたします。末永く私たちを応援してください。みなさんに
 大変感謝しています。ありがとうございます。

Atchara Aduljit
 Rajabhat Suratthani University

運営委員会

(2014 年 5 月～7 月)

活動	月日	場所	内容
運営委員会	5月	事務所	奨学金アサイン作業
運営委員会	6月	事務局	奨学金授与式準備
運営委員会	7月	事務所	ネットワーク通信編集、授与式報告（メール）

運営委員募集中！

一緒にキャンヘルプタイランドの運営に参加してみませんか？

通常は毎月第 4 土曜日に事務所に集まり、会の運営について話し合っています。見学でも結構です。是非事務所へ遊びに来てください。

次回の運営委員会は 開催日未定のため参加希望の方は事務局までメールでお問い合わせください。

編集後記

一時期は毎日ニュースになっていたタイの情勢もこのところは安定しているようですね。10 年ほど前のこの時期は毎年 3 週間ぐらいタイのイサーンの学校で校舎建設をしていました。タイも日本も夏の気温はそんなに変わり

<キャンヘルプタイランドネットワーク通信 Vol.66>

発行 キャンヘルプタイランド

発行人 西川 弘達

編集人 坂 茂樹

発行日 2014 年 7 月 30 日

住所 〒450-0003

名古屋市中村区名駅南 2-11-12

